

〔国際会議発表〕

発表研究者	早稲田大学 人間科学学術院 助手 川島 一朔	2172106
参加会議	The CNS 25th anniversary meeting	
出張期間	2018年3月24日～3月27日	
開催場所	Boston・USA	
発表論文	Estimation of Mind-Wandering — For the Respondent Conditioning Enhancing the Meta-Awareness Ability to Mind-Wandering マインドワンダリングの推定——マインドワンダリングへのメタ的気づき能力を向上させるレスポナント条件づけのために	

概 要：

うつ病患者には、過去の体験を悪く解釈するという特徴的な思考様式があり、これが症状を強めるとされている。患者に自身の思考を観察させ、そのような思考の「癖」を自ら見出すことで、症状を大きく改善させることができる。しかしそういった思考の大半は、いつの間にか生じてしまうことが知られている。患者は思考が出現していること自体に気がつかないため、それを観察させることは容易でない。そこで、患者の「いつの間にか思考」を機械に検出させ、アラームが鳴るようにする。これを繰り返すことで、アラームがなくとも思考が生じる度に注意が喚起され、思考出現に気がつけるようになると考えられる。思考の検出には脳波を用いる。機械学習を用いて脳波から思考を検出するモデルを、患者ごとに作成する。

研究は、「いつの間にか思考」出現の推定を実用化する上で問題に突き当たっていた。「いつの間にか思考」はマインドワンダリングと呼ばれ、認知科学や認知神経科学の分野で近年盛んに研究されている。また、脳波といった神経科学的指標と意識状態の関連を調査する研究も、同分野において多く行われている。そこで、認知神経科学領域における最大級規模の学会大会である The Cognitive Neuroscience Society Annual Meeting にてポスター発表を行い、意見を募った。これにより、脳波計測の方法、マインドワンダリング計測の方法、マインドワンダリング推定の方法それぞれについて改善案を得ることができた。研究完遂について、大きく展望が開けた。